



あなたのワンちゃん、最近こんな様子は見られませんか？



もしかしたら **クッシング症候群** かもしれません。  
ぶくじんひつきののうごうしんじょう  
(副腎皮質機能亢進症)

どんな  
病気？

副腎から多量のホルモンが分泌され、多飲多尿などの症状が出る病気。  
 血糖値が上がりがやすく糖尿病を併発したり、  
 感染症にかかりやすくなったりなどの二次的な弊害もあります。

主な  
症状

もっとも多い!  
多飲多尿

クッシング症候群の  
95%以上で見られる症状

多い!

皮膚トラブル

皮膚が薄くなる、脱毛など  
80%以上で皮膚症状が出る

原因と  
治療

筋肉がやせてくる

とくに後ろ足の太ももの  
筋肉が落ち、厚みがなくなる

おなかがふくらむ

いわゆる"ビール腹"のように  
おなかがふくらんで見える

大食になる

与えたら与えた分だけ  
どんどん食べる



発症原因 1

副腎そのものが原因

副腎に腫瘍ができるなどして  
ホルモンを過剰に分泌

発症原因 2

脳の下垂体が原因

下垂体から副腎に誤った指令が  
出され、ホルモン異常に

治療は? /

手術で腫瘍を摘出するか、  
薬でホルモンをコントロール

まず考えるのが、腫瘍の摘出  
手術です。腫瘍には良性、悪性の  
どちらのケースもあり、悪性で転移  
していると、手術ができないこと  
もあります。手術ができない場合  
は、薬を服用してホルモン量をコ  
ントロールします。

治療は? /

ホルモンを抑える薬を生涯  
飲み続けるのが一般的

副腎から分泌されるコルチ  
ゾールを抑える薬を服用し、量を  
コントロールする治療が一般的。  
定期的に通院し、薬を調整しなが  
ら生涯服用を続けます。下垂体の  
腫瘍摘出手術や放射線治療は、  
現実的ではありません。

発症  
しやすい  
犬種は?

どの犬種でも加齢とともに気をつけたい

加齢とともにどの犬種でも発症する病気のため、  
日々の健康観察が大切です。  
早期発見で二次疾患を予防できます。



犬の現代病は、「いぬのきもち」で毎月連載中!

●こちらは、掲載した記事を再編集したものです。

アニコム損保ご契約者が  
マイページから定期購読を申込むと  
2号(2ヶ月分)無料!!